



進化し続ける EM技術。 第三世代になった EM・X GOLD

新しい年にあたり、EM・X GOLDご愛用の皆さま
そして「EM生活」を実践する皆さまに向けて
EMの開発者であり、
日本全国そして世界各国にEM技術を広め続ける
比嘉照夫教授よりメッセージをお届けします。

EM開発者
名桜大学教授 琉球大学名誉教授
比嘉 照夫 氏

30年の歴史を 誇るEM研究

2010年の新春を迎えるにあたって、これまでEMの普及活動にご協力いただいた皆様方に対し、改めて感謝申し上げます。1980年に誕生したEMは30歳となり、一般への普及開始から28年目に入りました。

内外の多くのパッシングに鍛えられ、今やEMの本質はその蘇生力、すなわち「シントロピー現象」(エントロピー現象の逆)にあることが明らかとなってきました。土壌の微生物相を人為的に改良することが、その上に重なっている生態系や生産力を支えるものであるという考えは、徐々に理解されるようになりましたが、人間の体も250種以上、100兆個以上の微生物の生態系の上に成り立っています。

1993年、私が上梓した「地球を救う大変革」で微生物の在り方ですべてが決まる、善玉菌の集団であるEMを活用すれば、人類の世紀的課題である食料(二次産業)、環境、医療、健康問題の

すべてを解決できると断言したため、EMの受難の日々が始まりました。今でもこの確信は微動だにせず、着実な成果を上げ、ようやく世界が認めるようになり、正面切ってEMに反対する人は、まったくなくなりました。しかし、「EMを空気や水のごとく使うようになれば、すべてのものが解決する」という「EM生活」の実現は始まったばかりという感があります。



「地球を救う大変革」
1993年 比嘉照夫 著

すべての難問をEMで解決し、未来型の望ましい高度情報・共存共栄社会を構築することがEM運動に課された命題ですが、その立脚点は「幸福度の高い社会づくり」にあります。この課題は「EMをあらゆる場で徹底的に活用する」ことで可能であると言えますが、幸福度の高い社会の実現は、すべてのものが健全であるという条件を満たす必要があります。

その第一の関門が病気になることであり、病気になることも、確実に回復させられるという基本的

EM・Xから EM・X GOLDへの進化

条件を整えねばなりません。この条件は「EM生活」を実践している人にとっては常識とも言えるものですが、一般化するには、多くの難問を克服する必要があります。その代表的な壁は薬事法や医師法や食品の製造管理に関する法律です。これらの法律のおかげで、EMの活用は「すべて自己責任」という原則を貫くことになりました。

それでも「土壌改良資材を飲む」というのか」という批判もあり、その結果としてEMの機能を強化した清涼飲料水「EM・X」が誕生したのです。

「EM・X」は期待通り、健康の維持増進や数々の身体のトラブル回避に対して大きな力を発揮するようにになり、「EM・X医学研究会」もスタートしました。現在の「EM医学会議」や「EM医学国際会議」の前身です。それらの成果は毎年会報としてまとめられて公開され、基礎・応用を含めて幅広く活用されるようになりま



前身であるアメリカ資本のホテル



現在のホテルコスタビスタ沖縄

した。価格も当初500ccで12000円であったものを、数々の努力で4725円まで下げることができましたが、ほぼこの価格が限界になっていました。そこで、効果をさらに高め価格を下げることを目標に、材料の根本的な検討に入ったのが6年前です。

そのきっかけは、EMによる医学革命をめざし、EMウェルネスセンターを設立する決心をしたことにあります。

その目的を達成するために、沖縄が本土復帰する直前に建設された230室内外の「見捨てられたホテル」を入手しました。それをEM技術で修復し、新しいホテルに蘇らせ、そこにスパやクリニックを併設しました。

これと同時にEM技術の研究開発を行っている株式会社EM研究機構の本社機能も同じ場所に集約し、構想から6年目でやっと体制を整えることができたのです。

その目玉となったのが、かつての「EM・X」の5倍以上、加熱すると10〜15倍に機能が向上する「EM・X GOLD」。そして「EM蘇生海塩GOLD」、「EM蘇生ミネラルGOLD」です。価格も従来より下げることになりました。結論的なことをいえば「EM・X GOLD」を5〜6本買ったことになり、加熱して使えば10〜15本買ったのと同じ効果が得られるのです。

このことは精度の高い酸化還元電位計やオーリングテストでも簡単に確認することができます。念のために東京女子医大を含めた複数の専門機関でも検討した結果、健康の維持増進や様々な身体のトラブルにも著しい効果が見られたのです。

またEMウェルネスセンターやEM医学情報センターの設立にあたっては、「EM・X」を委託製造してもらった会社に対し、数回にわたって協力をお願いしましたが、すべて拒否されてしまいました。

このようないきさつからEM研究機構では「EM・X」の委託製造を中止し、独自に「EM・X GOLD」を作るようになったのです。

EM・X GOLDとミネラルは、それぞれに機能を高め合う最高の相性。



当初、「EM・X GOLD」のこのような効果が十分に理解されないうまま販売されたため、過敏な方から「元のEM・Xがいい」という声も耳にいたしました。この場合も「使用量を5分の1に減らせば元のEM・Xと同じ効果が得られますよ」と説明すると、それを実行した方々から「EM・X GOLDにしてよかった」という返事が返ってきました。

実証された EM・X GOLDの効果

「EM・X」から「EM・X GOLD」に換わって2年が経過した今日、これまでの「EM・X」では解決できなかったさまざまなトラブルに対し驚異的な効果が認められるように

なり、医療関係を含め、その評価は定まってきました。

EMを水や空気のごとく徹底して使うEM生活実践者の皆さんには「EM・X GOLD」は不要といえますが、病的な人や高齢者にとって体内の汚染を排除し、体内リズムを整えるためには「EM・X GOLD」の助けを借りる必要があります。

また、「EM蘇生海塩GOLD」や「EM蘇生ミネラルGOLD」にも基本的に「EM・X GOLD」と同様に触媒機能が高いため、ミネラルや塩による体内機能の活性化をさらに増強する力を持っています。その結果、原因がはっきりしないが異相感があるという各種の不具合に対して顕著な効果が認められています。

2010年も健康生活宣言

幸福度の高い社会をつくるためには、「不足」と「不安(恐怖)」の解決が必要不可欠です。そのためには現代のような競争社会システムではなく、共存共栄社会システムが構築されなければなりません。健全な社会をつくるためには、社会全体の免疫力を上げる必要があります。「使命感」、「責任感」、「正

【エントロピー】
物質の持つエネルギーは個々に決まっており、如何に有用な物質もエネルギーを放出するに従い、バラバラになり、次第にエネルギー持たない無価値で無秩序で散乱した状態に変化していく現象。通常、エネルギーを持たない無秩序な状態になってしまった物質をもとのエネルギーを持った状態に戻すことは不可能とされている。

【シントロピー】
比嘉教授が提唱する、エントロピーとは逆の現象。エネルギーを失った無価値で無秩序に散乱した状態の物質にエネルギーを与え、元の有用かつエネルギーを持った物質に甦らせる現象。

【触媒】
自身は変化しないが、特定の物質と接触することにより、接触した物質にエネルギーを与え、化学反応を促進する働きを持った物質の総称。触媒のうち、生物の体内で生産され、使用される触媒を酵素と呼ぶ。

医療法人 照甞会 沖縄照甞クリニック
〒901-2311 沖縄県中頭郡北中城村喜舎場1511 <http://www.em-medical.net>
TEL 098-935-1280 / FAX 098-935-1281

第一世代の「EM・X」の原料は米ぬかやパパイヤ、海草などとなっており、もともと抗酸化物質を多く含む材料をEMで発酵させた発酵産物が主となっており、EMの本質的な機能である触媒作用は十分でない状態でスタートしました。このレベルであれば類似の商品を作ることは比較的容易であり、ちまたには「EM・X同等品」といわれるものがいくつかが出回っています。

このレベルのものは、加熱すると効果が低下するため「加熱しないように」と注意書きをしているものもあります。こうしたことから、類似品との差別化のため、触媒機能を高めた「EM・X」の第二世代を作り、加熱しても効果は落ちず、むしろ増強されるという特長を持たせました。ちなみに、このノウハウはかつての「EM・X」を委託し製造してもらっていた会社には伝わっておらず、「EM・X」と同等品」と称している商品は、すべて第一世代のレベルのもので、加

「EM・X」と「EM・X GOLD」の本質的な違いについて



熱すると効果が低下します。

第二世代のEM・Xの研究の段階で、加熱しても効果が上がるというEMの触媒機能を強くする技術が確立されましたが、さらにEMの効果の本質について再検討を行いました。

その結果、第三世代の「EM・X GOLD」の効果は、従来の酸化防止力に加えて非イオン化作用と触媒的な機能を持ったヘリカル(マグネツトコイル状)構造による三次元波動を強化したものになりました。この三次元波動はすべてのエネルギーの授受に励起的に作用することが確認されたからです。

酸化防止力については改めて説明するまでもありませんが、非イオン化作用の効果、すなわち電気を帯びた状態から電気を帯びない状態にする力については、認識を新たにする必要があります。化学物質の大半のものは体内の脂肪やたんぱく質と電気的に結合し、なかなか排出されず、ダメージ因子を発生し続け、機能不全の原因となっています。しかし、「EM・X GOLD」の非イオン化作用が機能すると、体内の化学物質や重金属は電気的な結合力を失って、体外に排出されてしまつのです。

